

外国語教育に関するセミナー&ワークショップ
「外国語学習のめやす」に基づいた
文型リストの構築
——その枠組と構築例——

第1部

(2016/1/9, 九産大)

大筋

- 世界の言語教育の潮流の中での『めやす』
- 『めやす』の特徴
- 『めやす』はどのように授業・教材を設計することを推奨しているか？

Standards Based Approach

- ある「標準 standards」を設けて、能力を評価する言語教育のアプローチ
- 学習者の行動で表される能力であることが多い

世界3大standards

- CEFR
- NS
- めやす

CEFRとは何か

- **C**ommon **E**uropean **F**ramework of **R**eference for Languages: Learning, teaching, assessment.
- 6つのレベルと Can-do能力記述文で知られていますが……

NSとは何か

- **N**ational **S**tandards in Foreign Language Education
- **C**ommunication, **C**ultures, **C**onnections, **C**omparisons, **C**ommunities
- 言語教育が扱う範囲がますます拡大していることが
おわかりでしょうか……

『めやす』とは

- 他者の発見、自己の発見、つながりの実現
- 総合的コミュニケーション能力
- 「 $3 \times 3 + 3$ 」のキーコンセプト

『めやす』のわかりにくい (あいまいな) ところ

- 「つながる」？
- 「グローバル社会領域」？
- 「21世紀型スキル」？

「つながる」

- コミュニケーションの目的は、新たなソーシャルネットワークを作りあげること（Social Networking Approach, 當作靖彦）
- 「知識、スキル、態度」のうちの「態度」も関係する
- その言語を使うコミュニティにおいて、人とのつながりの中で成果物を得ることができる能力

グローバル社会領域

- 『めやす』の「グローバル社会」がわかりにくい理由
- 「グローバル社会の諸問題」と「グローバル社会で必要なスキル」が混在

「グローバル社会」

「グローバル化」

- すでに手垢のついた言葉
- 「グローバル化する社会」を肯定的に捉える人もいれば、否定的に…
- 「グローバル人材の養成」みたいなミッションを必要と考える人もいれば……

別に「グローバル」という ことばを使わなくても

- 要は、国や地域や社会を超えて普遍的な価値のある何かを意識すること
- あるいは「シチズン・シップ」のような観点から、必要な能力やスキルを考えてみてもよい

21世紀型スキル

- 過去の経験や知識だけでは生きていけない社会を生き延びるためのスキル
- 世界の隅々まで自分と関係ができてしまう社会を生き延びるためのスキル

『めやす』の構成

- 15の話題領域
- コミュニケーション能力指標

『めやす』の特徴

- ・ 抽象的な理念から具体的な授業・教材の提案までカバーする

『めやす』モデル

Step 1

言語の構造を理解し産出できるようにするための活動



Step 2

言語形式の機能を訓練するための活動



Step 3

社会的に容認される言語行動を訓練するための活動



Step 4

その言語を使用するコミュニティにおける成果物を得るための活動

教室で

社会で